

今月は瑠璃色の世界で始まりました。ネモフィラ（和名：瑠璃唐草）が空と溶け合って空気まで青に染まっているように感じます。新年度が始まりました。しかし、令和6年度の診療報酬改定を見ていると、瑠璃色と言うよりはブルーになってしまいます。

本誌に能登半島地震についての報告を書かせて頂きました。本会のJMAT派遣は終了しましたが、この場をお借りしてその後の状況等を報告させていただきます。3月に入ってからJMAT県本部と各支部では、能登北部支部を七尾市から輪島市に移しています。そして、主な活動エリアは、輪島市（門前地区、輪島地区）と珠洲市、能登中部では志賀町（志賀地区、富来地区）と中能登町、金沢以南では金沢市と野々市と白山市等となっています。派遣は縮小されてきており、現在は1日当たり15チーム前後となっています。JMAT2（被災地県医師会JMAT）も細く長い活動に向けて動いています。支援を地元の保健医療福祉のシステムに引き継いで行く時となってきました。3月で災害救助法の適用が終了するとの話もありますが、石川県は輪島や珠洲の状況を鑑みて、4月以降の延長を国に打診しているようです。まだまだ多くの方が避難生活をされています。

3月16日の北陸新幹線延伸に伴い、避難所となっていた金沢以南のホテルや旅館の営業再開が始まります（3.16問題）。これに伴い、避難されていた方々が能登北部に戻ることに伴い、医療ニーズも変化することが考えられます。被災地の診療所に関しては多くが診療を再開しているようですが、今後どの程度の方が元の地域に戻られるのかも不透明であり、医療ニーズがどうなるか分からない状況もあります。これらから、日医では地元の医師会がどのようにされていくのかを見極めながら柔軟かつ中長期的な支援を考える必要があるとしています。我々もいろいろな形で支援を続けていきたいと思っています。

東日本大震災から13年が経ちました。ハード面での復興は進みましたが、人口減少も進みました。移転によって住民がバラバラとなり、震災後の孤独死が3県で少なくとも553人とも報道されています。復興がいかに難しいかを痛感しました。

令和6年度も本誌は皆様にとって重要な情報と興味深い話題を提供していきます。今年度もご愛読宜しくお願い致します。

広報委員 出口 宝

